

10. リン酸化 EGFR の核内発現と食道 SCC の予後に 関する検討

病理学 (人体分子)

星野美奈, 福井広一, 小野祐子, 市川一仁,
富田茂樹, 今井康雄, 井村譲二, 藤盛孝博

内科学 (消化器)

星野美奈, 平石秀幸

【目的】 Epidermal growth factor receptor (EGFR) は通常細胞膜に発現すると考えられているが, 癌細胞では核にも発現することが知られている. しかしながら, その核内発現の臨床病理学的意義は明らかでない. そこで本研究では, 活性化した EGFR の発現, 局在変化の意義を明らかにするため, 食道癌組織において, リン酸化 EGFR (pEGFR) の細胞内発現局在を検討した.

【対象・方法】 外科的切除された25例の食道扁平上皮癌 (SCC) に対し, 免疫組織化学的手法を用いて EGFR と pEGFR の染色パターンを調べた. その上で臨床病理学的パラメーターと EGFR 及び pEGFR の染色パターンの関連を解析した.

【結果】 25例の食道SCCのうち, 17例 (68%) においてEGFR 発現が腫瘍細胞の細胞膜に認められた. 一方, pEGFR 発現は25例中9例 (36%) で核に認められた. pEGFR の核発現はTNM分類, リンパ節転移に有意に関連し, さらに食道SCCの生命予後と関連した.

【考察】 pEGFR の核内発現は食道 SCC の悪性度と関連し, 予後不良のマーカーになり得ることが示唆された.

11. COX-2阻害剤は大腸炎症性腫瘍を抑制するか?

p53ノックアウトマウス大腸炎症性発癌モデルにおける検討

病理学 (人体分子)

武川賢一郎, 藤井茂彦, 吉竹直人, 市川一仁,
富田茂樹, 福井広一, 小野祐子, 今井康雄,

藤盛孝博

内科学 (消化器)

武川賢一郎, 平石秀幸

【目的】 今回我々は, p53ノックアウトマウス大腸炎症性発癌モデルに対して選択的COX-2阻害剤 (etodolac) を投与し, その腫瘍抑制効果を検討した.

【方法】 p53ノックアウトマウスに3% dextran sodium sulfate (DSS) を投与し, 大腸炎を誘導した群 (Group A) を作成した. 上記方法に加え, 経口的に etodolac を投与する群 (Group B), 実験開始時より etodolac のみを投与する群 (Group C) を作成した. 一方, 無処置のまま飼育した control 群 (Group D) も検討した. Group A, B の一部を実験開始42日後, その他全ての群を126日後に屠殺, 全結腸を摘出し, 実体顕微鏡下に腫瘍の発生部位, 個数を観察した.

【成績】 Group Aにおける腫瘍数の平均値は 3.00 ± 0.52 , Group Bでは 1.29 ± 0.2 であり, Group BはGroup Aに比較し統計学的有意に腫瘍数の減少を認めた ($p = 0.00206$).

【結論】 p53ノックアウトマウス大腸炎症性発癌モデルにおいて, 選択的COX-2阻害剤は大腸炎症性腫瘍に対し, 抑制効果を有することが示唆された.